

## 編集後記

私は言語にとっても興味がある。ことばについて気になりだしたのは、小学生の頃だったか、もっと小さかった頃か記憶がはっきりしない。ただ、初めて外国人の口から、意味のわからない音声が出て来たときにはとてもびっくりしたのは覚えている。違う言葉を話すということを実感した最初だったと思う。

中学生になって、初めての外国語として英語を習い始め、少しずつパズルを解いて行くような形で、理解できる部分が増えていく。それがとても楽しかったのを覚えている。いつしか自分の言葉である日本語との違いを意識しはじめ、不思議だなあと思うことがどんどん増えていき、解けない問いを考えていたら、いつのまにか言語学をやっていた。言語は当たり前のように、だれもが使っている。でも人間が何故ことばを話すようになったか、人間の言語がどうして生まれたか等という根源的な問いはまだ解決されていない。どんなに科学技術や医学・脳科学などが進歩しても、まだ謎の部分である。日々不思議なことが次々出て来る。謎な部分に自分なりの答えを見いだした時は、嬉しくて興奮する。それでも私としてはすべての謎が完全には解き明かされないでほしいと思う。

言語について不思議に思うことは数限りなくある。誰もがその謎を抱え、考えていることと思う。切り口や見方が違ってても、言語について、あるいは言語を通して考えたことをみんなに知ってもらい、そこからまた議論が生まれていく。そのような場としての言語研究センターのこの紀要があるのはとても有り難いことだと思う。いつまでも大切にしたいものの一つだ。

(kk)